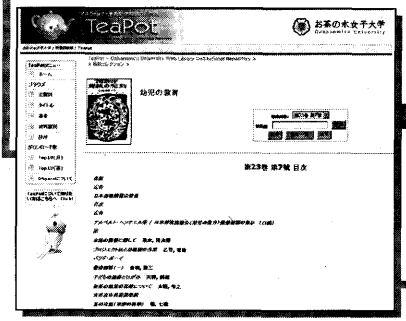
▶『幼児の教育』ネット公開に寄せて（2）

『幼児の教育』誌に見る幼児期の科学教育に関する記事

瀧川光治



お茶の水女子大学附属図書館のWEBサイト内の「お茶の水女子大学教育・研究成果コレクション（略称TeaPot）」にてバックナンバーインターネット公開中。
URL：http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/

このたび、『幼児の教育』誌がデータベース化され、誰もが手近にキーワード検索できるようになったということは、大変喜ばしいことだと感じています。私は十年ほど前から、日本の幼児教育・保育の歴史において、科学教育的な側面がどのように論議されていたかに興味をもち、歴史的資料として、復刻版『幼児の教育』（名著刊行会）を活用してきました。その成果は、拙稿（共著含む）として、

「月刊雑誌『幼児の教育』に見られる幼児期の自然教育観の変遷」（一九九九年）

「月刊雑誌「幼児の教育」に見られる領域「環境」の科学教育史―十五年戦争下の記事を中心として―」（二〇〇一年）

「堀七蔵の保育項目「観察」教育論―領域「環境」の保育史の視点から―」（二〇〇二年）

などの論文にまとめ、最終的には博士論文として『日本における幼児期の科学教育史・絵本史研究』（風間書房、二〇〇六年）に、日本における幼児期の科学教育の歴史を体系付けて整理しています。

このたび本誌の執筆依頼を受けて、私の興味のある人物名やキーワードで検索してみました。その結果を踏まえてここではこのデータベース（執筆時一九五二年まで公開）について述べてみたいと思います。

▼「堀七蔵」
戦前に本誌の編集主幹を六年間担った人物

まずは、本誌ともかかわりの深い堀七蔵（ほりしちぞう、一八八六～一九七八年）です。堀は一九二四（大正十三）年十二月から一九三〇（昭和五）年まで丸六年間、東京女子高等師範学校附属幼稚園主事として活躍し、同時に日本幼稚園協会主幹及び本誌の編集主幹を担った人物です。また、理科教育界においては、戦前を代表する理科教育学者として知られ、「子どもの疑問」のもつ意味を探り、それを基盤とした理科教授法に着手した人物です。保育・幼児教育史の分野における堀についての論考は、松波（一九九四年）、そして小林（一九九九年）のものや筆者のもの以外はほとんど注目されていないのですが、この機会に理系の幼稚園主事として活躍した人物を紹介したいと思います。

最初に「堀七蔵」と入れて検索してみると、結果が〇件。おかしいと思い「堀」だけで検索してみると、一〇〇件以上もヒット。結果リストをよく見ると「蔵」ではなく「藏」となっており、クリックして、PDFファイルで紙面を確認してみると確かに「藏」となっていました。堀の自伝本でも「蔵」と表記されていたこともあり、旧字体について自分の中で失念していたのです。当たり前ですが、元の資料に忠実に文字が使用されていることに感心しました。

検索結果リストを見てみると、堀の執筆した記事

は、一九一九年一月号（第一九巻第一号）の「冬の自然」が最初で、一九五二年一月号（第五一巻第一号）の「就學前の数教育」が最後となっています。その三十三年間に一三四編もの記事を執筆していることがわかります。記事のテーマは「冬の自然」「春の自然」「誰にでも出來る實驗（一）～（四）」といった保育者向けの自然や理科の解説記事をはじめ、「幼稚園に於ける「觀察」」（一、其の二）」「觀察のさせ方（一～四）」「○月の觀察」「（季節の）自然觀察」といった保育項目「觀察」にかかわる連載記事や、在外研究で一年間海外視察したことを元にした「私の視察した欧米の幼稚園教育」「私の視察したる米国の幼稚園教育」などの連載（全二十六回）があります。

堀の附属幼稚園主事時代の功績としては、自伝によると「幼稚園令」「幼稚園令施行規則」の制定に参画し、趣旨・精神の徹底に努力したこと、全国幼稚園の設備改善に寄与したこと、わくのぼり（ジャングル・ジム）を新案したことが述べられており、幼稚園令制定直後の一九二六年四月～二七年四月までの一年間、理系出身の幼稚園主事としての特別な使命を抱いて文部省の在外研究員として欧米の教育事情の視察を行ったことが述べられています。

さらに、現在のお茶の水女子大学附属幼稚園は、現園舎に一九三二年に移転していますが、それは創立当時の園舎は関東大震災で消失してしまったからです。そのため、堀の在任中は仮園舎で保育が行われていましたが、附属小学校主事に転任後においても、その移転先の園舎設計には堀がかかわっていることも述べられています。

そのような視点で検索結果リストを見ると、主事としての現場研究とともに海外保育事情などのホットな情報提供や、理系出身者としての保育項目「観察」にかかわる解説記事を多く本誌に提供しております。そして、一九三〇(昭和五)年十一月に附属幼稚園から附

属小学校に転任しましたが、その後も本誌に記事を寄せていることがわかります。

▼「科学」「理科」「観察」「自然」「環境」というキーワード

次に「科学（科學）」「理科」というキーワードや、「観察（觀察）」「自然」「環境」というキーワードで検索してみました。

①「理科」については、『婦人と子ども』誌時代の一九〇六年に「新夫婦の理科問答」（三回連載）で使用され、「科学」については、一九四一年以降「科學教育と幼稚園」「科學的芽生えを重んずる遊びのいろいろ」「幼兒への科學教育」「幼兒の科學疑問の調査」など一九四五年終戦までの間に一〇編の記事、終戦から一九五二年までに「幼兒の科學教育」「幼兒の科學心の教育」などの六編の記事が確認できた。つまり、日本の幼児教育・保育の歴史において一九四五年の第二次世界大戦終戦を挟んだ一〇年ほどの間に、「幼児の科学教育」ということが盛んに論議されたことがわかる。

②「観察（觀察）」については、一九二六（大正十五）年の「幼稚園令」により新たに付け加えられた保育項目であるが、一九〇七年五月号の「幼稚園に於ける觀察的誘導」の中で、中村五六が先駆的に提案をしていることがわかる。しかし、その後「觀察」という言葉が紙面に現れるのは、一九二六年の「幼稚園令」制定以後のことである。一九二六～四五年終戦までの二〇年ほどの間に、連載を含めて実に九三編の「觀察」にかかわる記事が掲載されている。また、一九二六～二七年当初は和田實「保育事項としての『觀察』に就いて」、平島權藏「自然界の觀察」、名古屋市保育會「觀察實施案」、倉橋惣三「觀察に就いて：

東京市幼稚園奬學講習會の講演大要」、早川節「觀察の地方色 ありのまゝ」などの、実施案や和田實・倉橋惣三の先達の「觀察」論が掲載されていた。

その後、一九二九年には堀七藏の「幼稚園に於ける『觀察』」の四回連載、一九三二年には同じく「觀察のさせ方」の四回連載、一九三三～三四年にかけては「〇月の觀察」といった十一回の連載があり、一九三六～三七年および四二～四三年には、小島（清水）光子による東京女高師附属幼稚園『系統的保育案の實際』の解説として、「觀察」の実際例が三〇編ほど掲載されている。そして、終戦後には、一九四六年三月に吉田とみ子「晩秋の觀察（保育の實際）」、四七年八月には堀七藏「秋に行われてよい觀察遊び（秋の保育の實際）」、五一年八月には同「夏の自然觀察」といった記事が掲載されている。

③「自然」については、一九〇一年の創刊初年には「五月の自然界」「六月の自然界」といった記事があり、その後は「保育と自然知識」（一三年）、「幼稚園と自然」（一五年）、膳眞規子の「自然物の玩具に就て」といった連載記事（二八～二九年）などがあり、「環境」については保育環境・生活環境としての山下俊郎の「子供と環境」の五回連載などの記事があった。

以上のように、現在の五領域における領域「環境」のキーワードである「好奇心」「探究心」「自分で考える」ということにつながる記事が、創刊当時から掲載され、保育項目「観察」が誕生してからはとくに多く論議されていることがわかります。しかも一九四五年の終戦を挟んだ一〇年ほどの間に、「幼児の科学教育」ということが盛んに論議され、その中ではとくに「好奇心」「探究心」「自分で考える」ことや子ども自身の試行錯誤、目的意識をもってかかわることが指摘されています。

▼おわりに

今回、このような機会をいただいたことで、改めてこれまでの自分の研究の足跡となるキーワードをたどってみました。私自身、これまでは文献資料として復刻版『幼児の教育』誌を、毎号ごとに目次のチェック、その内容の確認という手順で、調査に時間がかかっていました。ちょうど質問紙調査を用いた研究でコンピュータや表計算ソフト・統計ソフトの登場が、さまざまな統計処理に資することになったように、このようなデータベースができたことで、私のみならず多くの研究者の歴史的研究がはかどることが期待されるのではないかと思っています。また、幼児教育学・保育学の先達の論考や実践がインターネット上で検索でき、PDFファイルで見られるということは、保育者養成教育の教材としての積極的活用という道も広がるのではないかと期待しています。

（樟蔭東女子短期大学・生活学科保育学専攻）

参考文献

松波淑子「堀七蔵の保育界における事績」日本保育学会第四十七回大会研究論文集、一九九四年

小林明子「昭和初期の保育者たち(1)―東京女高師付属幼稚園」日本保育学会第四十九回大会研究論文集、一九九九年

栗原直子・瀧川光治「月刊雑誌『幼児と教育』に見られる幼児期の自然教育観の変遷」聖和大学論集第二十七号A、二〇三―二百十八頁、一九九九年

瀧川光治「月刊雑誌「幼児の教育」に見られる領域「環境」の科学教育史　―十五年戦争下の記事を中心として―」聖和大学論集第二十九号A、一七五―一九〇頁、二〇〇一年

瀧川光治「幼児期科学教育史研究(4)：堀七蔵の幼児教育界における功績」日本保育学会第五十五回大会研究論文集、二〇〇二年

瀧川光治「堀七蔵の保育項目「観察」教育論―領域「環境」の保育史の視点から―」『乳幼児教育学研究』第11号、八十一―九十六頁、二〇〇二年

瀧川光治『日本における幼児期の科学教育史・絵本史研究』風間書房、二〇〇六年

堀七蔵『教員生活七十年』（自費出版　制作・福村出版）一九七四年